



HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究

研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

研究協力者：下線はグループリーダー

1 看護職のボトムアップとエンパワメント

山田加奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

高橋 弘枝（公益社団法人大阪府看護協会 会長）

千葉 鐘子（公益社団法人大阪府看護協会 専務理事）

中垣 郁代（公益社団法人大阪府看護協会 教育部）

久光 由香（近畿大学附属病院看護部 感染症看護専門看護師）

大野 典子（日本生命病院看護部 感染症看護専門看護師）

橋本 美鈴（大阪はびきの医療センター 感染管理認定看護師）

辻岡麻衣子（国立大阪南医療センター 看護部）

北畠 朋子（藍野短期大学看護学科）

鈴木 光次（アリス訪問看護ステーション）

立花 久裕（訪問看護のナーシング堺石津）

上原 優子（大阪大学医学部附属病院 精神保健福祉士）

2 介護保険施設における教育と研修のアプローチ

井田真由美（堺市立総合医療センター 看護部）

泉 柚岐（信愛女学院短期大学看護学科）

西口 初江（羽衣国際大学人間生活学部）

豊島 裕子（大阪市立総合医療センター 看護部）

熊谷 祐子（みのやま病院 看護部）

岡本 友子（足立病院 看護部）

繁内 幸治（BASE KOBE 代表）

石原 章雄（あいラブ天王寺ケアプランセンター）

3 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への教育と研修

古山 美穂（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

橋弥あかね（大阪教育大学 教育学部 養護教諭養成課程）

工藤 里香（富山県立大学 看護学部）

高 知恵（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

大川 尚子（関西福祉科学大学 健康福祉学部）

北川未幾子（大阪府立大学）

池田麻衣子（大阪府立今宮工科高等学校 養護教諭）

眞弓 靖子（大阪府立日根野高等学校 養護教諭）

賀登さおり（大阪府立泉北高等学校 養護教諭）

研究要旨

『エイズ看護の在り方に関する研究（平成21～23年度）』、『地域HIV看護の質の向上に関する研究（平成24～26年度）』、『介護保険施設のHIVケアと学校基盤のHIV予防における拡大戦略の研究』に続き、『HIV看護・介護の質の向上と学校でのHIV予防教育実践に関する研究（平成27～29年度）』に取り組んだ3年間であった。過去9年間で①看護職のボトムアップのために体験的に学んで、心が動く研修企画とネットワーク作り、②HIVサポートリーダーによる高校生への予防啓発、③中高養護教諭の研修実施、④介護職へのアプローチが明確になった。

さらにこの3年間は、地域HIV看護の質の向上と拡大戦略に向けて、①介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施、②HIVサポートリーダー養成研修の受講生募集地域を大阪府内から近畿ブロックに拡大、③学校基盤のHIV予防教育の強化のために、養護教諭養成課程を担当する教員との協力体制作りを行った。研究テーマである、介護施設への啓発と高等学校でのHIV予防教育を支える看護職のボトムアップについての基盤ができつつある。

最終年度はCOVID-19感染拡大により、医療現場だけでなく、社会全体が大きく変わり、研究活動も変化した。HIVサポートリーダー養成研修はオンラインでおこなったが、効果は変わらず大きかった。高校生への出前講義は、学校の実情に合わせて、対面での分割講義、オンライン講義、オンデマンド動画視聴など様々な方法で実施した。

研究目的

地域におけるHIV看護の質の向上をはかるために（公社）大阪府看護協会と連携しながら、看護職と看護学生・養護教諭課程学生を対象にHIVサポートリーダー養成研修を実施する。介護職を対象とした出前研修を実施する。高等学校への出前講義を実施し、教育効果のアップを図る。

実践研究内容



<平成30年度>

I 看護職のボトムアップとエンパワメント

6月と10月に第16回・第17回HIVサポートリーダー養成研修を3日間から2日間に濃縮して実施した。受講者数の累計は320名である。大阪府外からの参加者は合計37名であり、着実に増加している。HIV感染症の医学的な情報だけではなく、幅広くセクシュアリティ教育として「性の多様性」「思春期からの性感染症・避妊」の内容も含め、楽しいアクティビティを盛り込んだ楽しい研修という評判が広がってきた。詳細は、別添アンケート調査結果を参照。

看護師・養護教諭養成機関においてもHIV感染症については十分な内容を教育されていないので、研修には看護学部生・養護教諭養成課程学生を含めて看護職のボトムアップを今後も図る。

研修の修了生には、出前講義への見学や参加を勧めており、見学者が増加している。研修の講師として講義をおこなう機会を今後も作っていき、一般の看護職が高校への出前講義や研修など、病院以外の場面で活躍できる場を提供する。

看護職への研修は、（公社）大阪府看護協会での実習指導者講習会（80名×3回）、国立大阪医療センター（40名×2回）、全国教務主任養成研修（30名）久留米大学（80名）、医師・看護職への研修は、国立福山医療センター（20名）で実施した。

II 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

1. 対象

大阪府内で研修の依頼がある介護保険施設（2施設）及びA市が開催する施設責任者会議内研修受講者、計65名。

2. 研修内容

研修参加者に対し、無記名自記式質問紙調査を倫理的配慮の上で実施した。「HIV感染症について」、「患者の思い」の講義、視聴教材DVD「介護職として知っておきたい10のこと」を視聴し、標準予防策で必要な、マスク、手袋、エプロンの着脱方法を実際に体験（計90分）し、研修前後の知識・態度・言動の変化について調査した。

3. 研修の効果

【感想についての自由記載】

- ・ 感染、発症したら死ぬなどの怖いイメージ。不治の病だと思っていた。
- ・ 怖い、感染率が高いと思っていた。
- ・ HIV/エイズについての研修は初めてでした。研修がなぜヘルパーに必要なのか疑問でした。
- ・ 利用者の感染症の有無を知らず、介護していることが多い。
- ・ 良い薬ができて普通に生活が送れるようになったとは言え、多くの患者が偏見に苦しんでいる事実を知った。
- ・ AIDSの知識は死のイメージでした。研修を重ねて少しずつイメージをかえることが必要。
- ・ 感染予防策がなぜ必要なのか改めて考える機会になった。
- ・ 正しい知識が広まることで、世の中のたくさんある偏見や差別がなくなってほしいと感じた。
- ・ 標準予防策を行うことで、安心して利用者様と向き合い対応できる。
- ・ 医療が進歩していること、知識は更新しないとけない。感染力の低いことも学習できた。利用相談が入っても前向きに検討する心構えと施設として整えるだけでなく、ご本人の気持ちやご苦勞に寄り添うことも忘れないようにしたいと感じた。

III 高校生へのHIV予防啓発と養護教諭への研修

- ①第15回HIVサポートリーダー養成研修には、関西福祉科学大学の養護教諭養成課程の学生8名と教員1名が参加した。
- ②HIVサポートリーダー養成研修修了者に出前講義等の登録希望調査を実施し、高等学校からの出前講義の要請にこたえていく。
- ③高等学校への出前講義（一斉講演）年間15校
- ④高等学校へのクラス単位のSTI/エイズ予防教育を2校に実施した。1校あたり、20名近くの臨床看護職が参加し、次年度以降も積極的な協力者が確保できた。

<令和元年度>

I 看護職のボトムアップとエンパワメント

（公社）大阪府看護協会との協働により、第19回までの累積受講者数は380名である。6月21-22日開催の研修には、他府県からの参加者が63%であった。また看護師・助産師だけでなく、医師・臨床心理士・ケースワーカー・主任介護支援専門員・歯科衛生士・保健師の参加が増加した。

三重大学のHIV診療チームから依頼があり、2月に「性の多様性」というテーマで講演予定である。そこでも研究班の取り組みを紹介する。

保健師など多職種との連携強化のため、近畿ブロック府県感染症対策課に研修の案内を送付したところ、保健師・心理職からの応募が増加した。

HIV診療拠点病院ではなく、HIV専門医がいなくてもHIV検査をしている限り、初期対応ができることを目標に、今後もHIVサポートリーダー養成研修を継続し、看護職のボトムアップを図る。特に臨床で働く看護職が高校で出前講義をおこなう取り組みは他に無い取り組みであり、普及に努めたい。

II 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

今年度は介護施設での出前講義を堺市内2か所でおこなった。60分という短時間でも、HIVの最新治療について正しい情報を伝えると、HIV陽性者の支援について理解が得られた。HIVに対する医療が進歩していること、「U=U」などの新しいキャンペーンについても伝えた。

介護施設の職員への標準予防策についての教育はまだ不十分である。知識だけでなく、手袋・マスク・エプロンの正しい装着やケア後の処理についても、実技を2回おこなう機会を作るなど、工夫が必要である。標準予防策について自信を持っていただくと、感染力の低い HIV 陽性者の受け入れもスムーズに進むと予測できる。

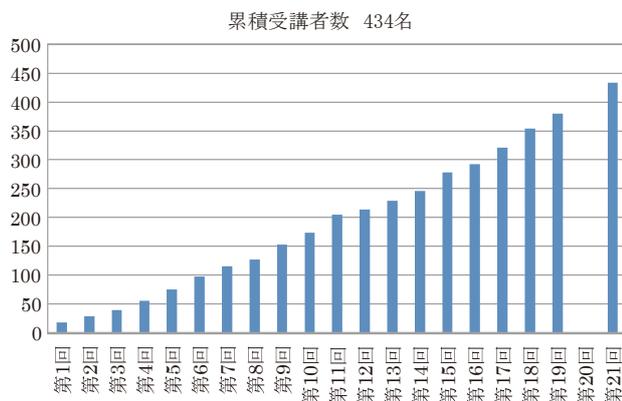
III 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への研修

看護職が高校の各教室に出向いて、2コマ連続で「おつきあいのマナー」「性感染症予防」について出前講義を大阪府立貝塚高校で実施した。講義後に、看護師志望の高校生への相談会も実施し、高等学校との協働を強化できた。2年間の取り組みを11月のエイズ学会で発表した。「おつきあいのマナーかるた」は改訂を重ね、大阪府立大学セクシュアリティ教育プロジェクトと（株）TENGAヘルスケアが協働し、日本思春期学会の後援を得て、12月から医療・教育関係者にテスト販売をスタートできた。

<令和2年度>

I 看護職のボトムアップとエンパワメント

（公社）大阪府看護協会との協働により、第21回までの累積受講者数は434名である。今年度はオンライン研修に変更したことにより、近畿圏外からの参加者が増加した。看護師・助産師・保健師以外のパラメディカルスタッフの参加があった。



HIV 診療拠点病院ではなく、HIV 専門医がいなくても HIV 検査をしている限り、初期対応ができることを目標に、今後も HIV サポートリーダー養成研修を継続し、看護職のボトムアップを図る。特に臨床で働く看護職が高校で出前講義をおこなう取り組み

は他に無い取り組みであり、普及に努めたい。（公社）大阪府看護協会のように HIV 陽性者のケアと HIV 感染予防について、協力的な都道府県看護協会を増加させる取り組みが必要である。

HIVサポートリーダー養成研修の効果 ＜第21回アンケート結果より抜粋＞

1. これまでの思い込み・誤解に気づいた
 - HIVは死に至る病、陽性者に関わりたくない
2. HIV診療の第一人者から、最新の予防と治療について直接講義を受けることができた
3. 他の研修には無かった良さがある
 - 医師だけでなく、公衆衛生やHIV看護のエキスパート、地域での支援者など
 - 自分自身の看護の可能性がひろがりエンパワーされた、夢が広がった（出前講義に関わりたい）
 - 看護・養護の学生の発言に刺激された

II 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

今年度は COVID-19 感染症が拡大し、高齢者への感染予防のために、介護施設での研修は中止した。

介護施設の職員への標準予防策についての教育はまだ不十分である。知識だけでなく、手袋・マスク・エプロンの正しい装着やケア後の処理についても、実技を2回おこなう機会を作るなど、工夫が必要である。標準予防策について自信を持っていただくと、感染力の低い HIV 陽性者の受け入れもスムーズに進むと予測できる。

III 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への研修

COVID-19 感染予防のためにグループ単位やクラス単位の対面講義は中止した。おつきあいのマナーカルタを使用した少人数グループによるクラス単位のワークショップは、今後オンラインゲームの開発をおこなうことになった。コミュニケーションスキルの向上をはかりながら、楽しく性感染症予防を学ぶための方略を工夫することが課題である。命の現場にいる看護職が高校生への出前講義に出かけて、HIV 予防について語ることの効果や意義は大きい。高校生への出前講義について、臨床の看護職が担当できるように引き続き学校現場と連携を強化する。

今後の課題

1. 全国の都道府県看護協会との協働を促進する

HIV 診療拠点病院ではなく、HIV 専門医がいなくても HIV 検査をしている限り、初期対応ができることを目標に今後も HIV サポートリーダー養成研修を継続し、看護職のボトムアップを図る。(公社)大阪府看護協会のように HIV 陽性者のケアと HIV 感染予防について、連携できる都道府県看護協会を増加させる取り組みが必要である。

2. HIV サポートリーダー養成研修修了者による介護施設への出前講義の実施を増加する

介護職対象の介護施設内研修については、今後も拠点病院の看護職が実施できるように人材を育成する。

3. HIV サポートリーダー養成研修修了者による高等学校での出前講義の実施を増加する

高等学校の近くにある病院に勤務する看護師が講演をおこなうことは、高校生にとって看護という職業を知る機会にもなり、講師を務める看護師にとっても「看護のやりがい・満足・達成感」をもたらし、健康な高校生との関わりは看護観の広がりや深めるのでさらに実施校を増加できるように、講師の養成に力を入れたい。

結論

看護・介護・学校現場でのケアと予防の拡大のための基礎作りが出来たので、さらに研修・教育内容を洗練させ、地域における HIV 看護の質の向上に向けて実践を継続することが重要である。

健康危険情報

該当なし

研究発表

1. 論文発表

佐保美奈子・地域における HIV 看護・介護・予防・国立福山医療センターだより・2019・Vol.12, No.4, p.10

佐保美奈子・からだところの多様性を知り、健康的な生き方を支える・日本看護協会出版会・日本看護協会機関紙「看護」第 69 巻、第 15 号、pp.50-51・2018

2. 学会発表

佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、高知恵、工藤里香、立花久裕、豊島裕子、大野典子、白阪琢磨：

地域 HIV 看護・介護の質の向上と拡大戦略 10 年間の成果と展望。第 34 回日本エイズ学会、2020

佐保美奈子他・臨床看護職による大阪府立 A 高校におけるクラス単位 HIV 予防教育の実践・第 33 回日本エイズ学会・2019

井田真由美・佐保美奈子他・介護保険施設における感染症予防研修・第 32 回日本エイズ学会・2018

佐保美奈子・HIV 陽性女性のリプロダクティブヘルスとその支援・久留米大学医学部特別セミナー・2018

H. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし